

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2012年1月★第96号

～謹賀新年のご挨拶～

政策転換の責任と倫理

理事長 長谷川 公一

2011年は、東日本大震災、福島第一原発事故と、文字どおり「激震」に見舞われ、翻弄を余儀なくされた1年でした。居住地近くで、職場で、またNGO・NPOとして、「復興」に奮闘する日々が続いていることと存じます。とくに沿岸部にお住まいの会員のみなさまのご苦勞・ご心痛は、今なおいかばかりのことかと拝察されます。

昨日のように、明日が続くことが決して自明ではなく、朝に夕に、1日の始まりと終わりを安らかに迎えられることの「平穩な」幸せを噛みしめるこの頃です。津波被害も、原発事故も、私たちが立っている足場の「危うさ」をあらためて意識させる出来事でした。

そんな中で印象的だったのは、福島原発事故を受けて、ドイツ政府が「安全なエネルギー供給のための倫理委員会」をつくり、その委員会の2ヶ月間の集中的な討議をもとに、2022年までに、17基ある原発全てを廃炉にすることを決定し、主要4与野党が合意して法律にしたことです。注目したいのは、この委員会の名称が「倫理委員会」だったということです。日本では、エネルギーの安定供給、環境、経済性の「3つのE」の名のもとに原発が推進されてきましたが、政府や電力会社、メディアは「エネルギー供給と倫理」を等閑視してきました。

17名の委員の中には、社会学者のウルリッヒ・ベック、環境政治学者のミランダ・シュラーズが参加しています。委員会の報告は、技術的評価や経済的評価よりも、社会の価値判断が先立つことを強調し、自然や生態系に対する人間の責任を重視しています。私は環境社会学を専攻していますが、報告書全体が見事に「社会的視点」に貫かれています。この報告書に至る背景や経過などは、拙著『脱原子力社会へ』（岩波新書、2011年9月刊）の第4章をご覧ください。

最後にうれしいご報告です。震災の影響で県の認定が大幅に遅れ、会員のみなさまには大変ご心配をおかけいただきましたが、11月の公益認定等委員会で、無事、認定を受けることができました。2月1日に公益財団法人として登記予定です。

公益財団法人MELONを引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

2012年のみなさまのご多幸と復興の早からんことを祈念いたします。



ドイツの風力発電の村（ダルドシャイム）

MELONとは 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - 年5回の情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1. 理事長挨拶
- P2. COP17のゲンバから
- P3. 森を活用しよう！
炭作り&薪作り&森林体験講座 開催
- P4. MELONcafe プチ講座
かんきょう読み聞かせ「おちばいちば」
- P5. 協同組合のコーナー
50人リレートーク 平井高昇さん
- P6. ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7. 学校給食アンケート実施
エコなクッキング基礎講座 出前授業実施中
- P8. 投稿、イベント一覧、編集後記

COP17のゲンバから

ストップ温暖化センターみやぎでは、運営委員佐藤剛氏と江刺家由美子リーダーを南アフリカ共和国のダーバンで開か

れたCOP17に派遣しました。ウェブサイトに情報を掲載し、現地の様子や他国のNGO等の活動などをレポートしました。

閣僚級会合にて

各国の閣僚によるステートメント（提案等）がはじまり、カナダのとき会場内でちょっとしたざわめきがありました。カナダの環境大臣の演説中、オブザーバー席にいたおそろいのTシャツを着た若者6人が、演説者側に背を向け、無言のまま立ったのです。気候変動問題の解決に後ろ向きで、京都議定書からの離脱を決めたカナダに対する無言のメッセージを伝えたかったようです。その後、彼らは警備員に会場外に連行されましたが、彼ら若者に対し会場内から大きな拍手が湧きあがりました。

日本の細野環境大臣は、現行の京都議定書の単純延長は公正・公平ではなく、かつ、真に地球温暖化問題に対する解決とはならないので、日本はこれに加わらないことを明言し、その上ですべての国が削減義務を負う新しい枠組みづくりの必要性について述べました。私は、細野大臣の演説の内容そのものは極めて真っ当であると感じたのですが、日本を含む世界のNGOのメンバーには不評のようです。会場内には、I Love（ハートのマーク）KPのロゴの入ったTシャツを着た人の数が日に日に増え、KP（京都議定書）を大事にしようとしていました。

【佐藤氏】



若者の無言のメッセージ

グリーンな会場ICCとボランティアの活躍

COP17は、ダーバンの中心部にある国際会議場（ICC:International Convention Center）で開催されています。パンフレットを見てみると、COPを環境に配慮した方法で開催することは大きくアピールされているポイントの一つで、ICC自体も環境にやさしい建物であることが書かれています。また、会場やバス停などそこかしこにいるたくさんのボランティアの活躍は、運営を支える大切な要素です。

ICC近辺では参加者の滞在に関するアンケートをしています。「調査してるんですが・・・」と言われて軽く引き受けたところ、「あなたは滞在するホテルを選ぶときに、『環境』という視点を考慮しましたか?」「滞在中、歯磨きはコップを使う、節電するなどの行動をしていますか?」などの項目がA4紙で4枚分。その量に少し驚きましたが、状況を把握することは次のステップのために欠かせないということを再確認しました。そして、ボランティアのみなさんは、誰もが「こんにちは〜♪♪♪」と満面の笑顔で挨拶、「会場の場所がわからない」など困ったこともすぐに解決してくれます。炎天下の中での活動や夜遅くまでのバス案内など大変な面もあると思いますが、皆さんの活躍のおかげで運営が進んでいると思うと本当にありがたいです。

【江刺家】



ボランティアのユニフォーム

COP17とは?

気候変動枠組条約第17回締約国会議の略称で、11/28（月）からの約2週間開催された地球温暖化に関する国際会議です。京都議定書では、国によって数値は異なりますが温室効果ガスを日本は6%（90年比）、先進国全体で5%（同）削減を目標とすることが定められています。この約束の法的な効力がある期間は2008年から2012年まで。そこでCOP17では2013年以降の約束についてや、アメリカや中国などを含めた対策の枠組作りをどう具体化するかが焦点となりました。COPは毎年開かれ、来年はカタールでの開催が決定しています。

ダーバンってどんなところ?

ダーバンはインド洋に面した港町で南アフリカ第三の

都市です。平均最高気温が夏は27℃、冬でも22℃と温暖な気候でリゾートとしての人気が高い場所です。毎年のように国際会議や世界選手権などが開かれ、2010年のサッカーワールドカップの会場の一つともなりました。また、市内にはインド人街があり、同国のほかの都市とは異なった雰囲気を持っています。



佐藤剛氏（ストップ温暖化センターみやぎ運営委員）



ストップ温暖化センターの運営委員会に参加するようになり5年ほどになりますが、その間、欠席が1回のみという高い出席率だけを誇ります。パティシエの長女と京都の大学で社会学を学ぶ次女と二人の娘の父親です。

「聞く・話す・知る わたしと世界とオランダカ

～カタヌキのじかん&基礎から学ぶ国際会議～」

日時 2012年1月28日（土） ※参加費無料

① 10:30～12:30

ワークショップ「カタヌキのじかん」
外国人を交えて互いのライフスタイルについて楽しく学びあいます。

② 13:30～16:00

COP17 報告会「基礎から学ぶ国際会議」

会場 仙台青葉カルチャーセンター 403
(仙台市青葉区一番町 2-3-10 カルチャー仙台ビル)

森を活用しよう！ 炭作り & 薪作り & 森林体験講座 開催

今年MELONで新たに発足した「みやぎ里山応援団」。宮城県の森林率（震災前）は57%と仙台平野を有するため全国平均の67%より低い状況ですが、青葉区や太白区など仙台市の西部には森林が広がっており、また川崎町では80%と西部の市町村では豊富な森林があります。人工林や里山は手入れをすることによって森が元気になりCO₂の吸収等の効果を発揮できるため、森林資源の活用と森林の活性化を目指すべく、この秋3つの体験講座を開催しました。

白炭作り体験会 ～伝統の技・白炭で炭焼きを味わう～

日時：10月29日（土）9：00～13：00
場所：川崎町今宿
講師：NPO法人川崎町の資源をいかす会雁戸白炭の会
参加者：18名

「白炭」をご存じですか？炭にも「黒炭」と「白炭」の2種類があります。「黒炭」は一般的に販売されている炭で、窯で焼いてからそのまま密閉した窯の中でゆっくり冷やします。表面が黒く、火つきが良く立ち消えも少ないのが特徴。一方「白炭」は1000度を超える高温で焼き、真っ赤なうちに窯から出して灰と土が混ざったものをかけて一気に冷やします。代表的な白炭の1つに備長炭があり、特徴として火力が強く、火持ちが良く遠赤外線を多く発します。

白炭作りは経験と技術が必要なため、今では職人がごくわずかになっています。今回MELONではその技術を多くの方に知ってもらおうと体験会を開催しました。真っ赤に燃えた炭をかき出す作業では窯の熱さや道具の重さ、できた炭を壊さないようにする慎重さを実感しました。その後炭や森林の活用の大切さについて話を伺い、最後にはできたての炭で炭焼きを味わいました。自宅でも炭を作ってみたいとの感想もあり、炭の良さを体験してもらえたのではないのでしょうか。



秋の森で遊ぼう！ in 川崎町貸森林

日時：11月5日（土）9：00～15：30
場所：川崎町貸森林
講師：宮城県地球温暖化防止活動推進員エコ・森林グループ
参加者：21名

今年で3回目となる「森で遊ぼう」講座は今回も多くの親子が参加し、4～12歳の子どもたちは森の中で綱渡りや竹笛作り、薪割りなどで思いっきり遊び、あっという間に仲良くなっていました。

（独）国立青少年教育振興機構の調査では、「幼少期の体験が多い青少年ほど、思いやりややる気、人間関係能力等の素質・能力が高い」そうです。今回参加した子どもたちもこの経験が将来に活かされることを期待したいですね。



薪作り & おいしい活用体験会 ～薪割り・天水桶作り・薪クッキング～

日時：11月13日（日）12：00～15：30
場所：秋保湯本市民センター駐車場
講師：NPO法人フォレストサイクル元樹
参加者：75名

森講座で最も反響が大きかったのがこの薪体験講座。定員50名に対し、事前申し込みの反響が大きかったため、定員を増やし講座を行ないました。

初めての講座にも関わらず、途中で雨が降り急遽集会室を借り移動するなど慌ただしい講座となってしまいました

が、そんな中でも、子どもたちには薪割りが大人気。子どもでも使える薪割りの道具を使って幼稚園の子どもも薪割りを楽しんでいました。割れた時の達成感が子どもたちを夢中にさせるようです。

薪割りや薪ストーブに興味を持つ方々が仙台周辺にこんなにもいることに何より驚きました。薪ストーブの需要は高まっているんですね。



今回は体験講座が主でしたが、需要があることと、森林整備などへの興味があることもアンケートで判明したため、今後は体験講座にプラスして森林整備など森林活動につなげられるようにしていく予定です。



MELONcafe

MELONcafe プチ講座

- 10月15日(土) 13:30~14:30
「古着をリメイク★お花のブローチづくり」
- 11月19日(土) 13:30~14:30
「保温調理で省エネ♪
シンデレラのかぼちゃプリンづくり」
- 12月10日(土) 13:30~15:30
「特別企画 クリスマスキャンドルづくり」

10月の講座は着古した洋服、古布、端切れ、レース、ボタンでお花のブローチを作りました。参加者は好きな色、好きな素材を組み合わせで自分好みに楽しく作っていました。

11月の講座は旬の野菜のかぼちゃを使って、保温調理のプリン作りです。タオルや鍋カバーを使って、加熱後の余熱保温で料理を仕上げる保温調理。温かい料理を作る冬に、保温調理は手間いらずでエネルギーも光熱費も節約できます。また、かぼちゃは冬野菜で体

を温める効果があると言われています。今回は冷やさずアツアツのプリンを試食しました。参加者からは家でも保温調理を実践して、省エネにつなげたいとの感想がありました。

12月は2時間の特別企画として、キャンドル作家の ITO AYAさんをお招きして本格的なクリスマスキャンドルを作りました。使用したろうソクは不要になったものを再利用し、一部は石巻で被災された MELON 会員さんからいただいたものです。講師の指導を受けながら、色とりどりのキャンドルができあがりしました。話題として、12 / 22(木・冬至)に毎年全国で行われている「100万人のキャンドルナイト」もお話ししながら進めました。みなさんも家族や友人とキャンドルの炎だけで夜を過ごしてみませんか？

今後の MELONcafe プチ講座

- 1月14日(土) 13:30~14:30
「古着をリメイク★かわいいホッカイロ入れ作り」
- 2月4日(土) 13:30~14:30
「着物をリメイク★貝のおひなさま作り」



おちばいちば

「いろんな楽しみ方」

石垣政裕

山のおち葉はどうなっているんだろうかと、街路に渦巻き、舞う枯葉をみながら心配しています。「かきねの かきねの おち葉たき」で焼き芋するのはとうに昔の話ですが、福島原発の事故から十ヶ月の今は、おち葉焼こうなんてとても思いませんね。子どもたちからは、今のおち葉がどう見えているのでしょうか。

西原みのり 作「おちばいちば」(ブロンズ新社 2011年10月)を読んでみましょう。心配事が吹き飛んでしまうようなとても楽しい絵本です。さっちゃん突然かぜとともに虫の大きさになって森の「おちばいちば」へやってきました。なにからなにまでおち葉できています。まあ、なんとおち葉が、ごちそうをはじめいろいろなものにかたちを変えていますよ。そのおもしろさったら。

本文もそうですが、うわーっところがあったかくなりそうな絵。でもその中のひとつひとつの品物の名前がまたおもしろい！これは、子どもたちがその名前のおもしろさを見つけるまでだまっておいってくださいね。じっと待ちましょう。いいですか、いいっこなしですよ。



こんな風に、絵本はどこを楽しんでもいいんですよ。絵本の細部を楽しんでもみるのもいいですよ。

さて、細部といえば、やっと合意した COP17 での閣僚級会議。日本の環境相の演説の京都議定書の延長に関するところをちょっと離れて、細部を見ると「エネルギー対策と温暖化対策の両方の見直しを進めている」と演説しています。環境大臣が話す「エネルギー対策の見直し」ってなんなのかは日本人の私たちにもよくわかりませんから、きっとこれを聞いた他の国の人もわかりづらかったらうなあと感じます。福島原発事故を経て「国のエネルギー対策からまもられている」国民にどうしたらなれるのかと真剣に考え始めている私のようなひとは困ってしまいます。

実際のおち葉がまた、子どもたちのたのしく、豊かな想像力をかきたててくれる日を楽しみに、この本を読んでみましょう。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

冬の節電・節水チャレンジ

チャレンジ期間：2011年11月～2012年2月末日

みやぎ生協が6月～9月に呼びかけた「夏の節電・節水」は、震災後のライフライン停止の経験から「電気や水」を大切にする暮らし方につながりました。エネルギー消費量が増える冬も「3つの首を温める」など電気に頼らずに体とお部屋をあたたくする工夫で「冬の節電・節水」にチャレンジしましょう。

ホームページからも参加できます。みやぎ生協→環境で検索ください。ブログ「みんなでエコ in みやぎ」でもエコ情報発信中です。http://blog.miyagi.coop/eco/ チャレンジシートをご希望の方は下記までご連絡ください。

申し込み・問い合わせ先

〒981-3194
 仙台市泉区八乙女4-2-2 文化会館ウイズ内
 生活文化部くらしの活動事務局
 TEL：022-218-5331 FAX：022-218-5945
 メール：sn.mkankyok@todock.jp



MELON20周年をめざせ！ 50人リレートーク



第39人目の執筆者

平井崇昇さん

(Horse Garden SENDAI)

私は、昨年度まで福島県南相馬市でポニーを活用した青少年育成団体で働いていました。簡単に活動内容を説明すると、仙台や東京など都市圏に住む子どもたちが夏休みに牧場へ訪れ、ポニー乗馬で感動したところで、スタッフやボランティアから「乗せてもらったお礼に、馬小屋のそうじをしてあげよう！」と利他の一歩を促します。このポニーを活用した情操教育の特徴を一つ挙げるならば、自分の意思を他人へ伝えることが苦手な子どもが、ポニーとの関係から「自ら積極的に働きかけて仲良くなる」ことを学べることです。ここに詳しく書き綴ることはできませんが、絵本「星の王子さま（著：サン・テグジュペリ）」で王子さまが狐と出会うところにヒントがあると思います。

私は、3.11の大震災での福島原発の事故で、気づ

いたことがあります。近代的な生活環境であたりまえに「空気」「水」「食料」「燃料」などを享受してきましたが、身近に原発というとても怖いリスクがありました。恥ずかしながら、今になって全面的に環境教育を取り入れる必要性を感じています。

現在、仙台で馬やポニーを活用した情操教育を展開したいと模索しています。一過性のイベントに終わることなく「武芸の稽古によって身を守る術を学ぶように」「公文に通って学力を身に付けるように」低エネルギー社会に向けたライフスタイルを環境教育や食育等に携わる方々と連携して、習慣化できる学習教材へと発展できればと思っています。

連絡先／ takanori.h01@gmail.com



… 次号執筆者紹介 …

菅原正徳さん
(カワラバン)



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.53

受診者からの声ぞくぞく来てます！「うちエコ診断」



窓口診断の様子
(場所：MELON事務局)

10月から開始した「うちエコ診断」。沢山の方にお申いただき、ご自宅やMELON事務局、職場などで多数実施しています。今回は、今年度実施した診断の中から、MELON事務局での窓口診断の様子をご紹介します。

まずは、受診者から事前に提出いただいた事前アンケートを元に、現在の自宅のエコロジ一度を見ていきます。エコロジ一度の順位や平均との比較の結果を見ると、「面白いですね！」と、興味津々です。

続いては、特に排出量の大きなポイントを重点的に見ていきます。診断員からの「自動車からの排出量が多いですが、使用を控えることはできそうですか」との質問には、受診者からは「仕事で使うので難しいですね。買い物などは、無駄にいかず、まとめていくなどできそうです」と、相談しながら

ら実行可能な対策を選んでいきます。また、受診者から「床の冷たさが気になっているのですが」との質問には、「こんな断熱グッズがありますよ」とのアドバイスも。最終的な提案結果を見て、受診者からは、「これならできそう」「気になっていたところが解消できたので良かった」との感想がありました。

その他、これまで実施した診断の感想の中には、「光熱費やガソリン代がどのくらい安くなるかも分かり、節約にもなりそう」「このデータがあれば、省エネ生活に消極的な家族を説得しやすそう」といった声がありました。

国立環境研究所(※)によると、1990年から2009年にかけての家庭部門における年間CO₂排出量は26.9%増と、依然として家庭からのエネルギー消費は増え続けているのが現状です。私たち一人ひとりが家庭で省エネに取り組むことが、CO₂排出量の削減に繋がっているのです。

※出典：温室効果ガスインベントリオフィス(2011年4月発表)

推進員だより No.2

つながっている ツバルと私たちの暮らし

海老沢法導さん、菅野剛夫さん、
菅野喜美恵さん、庄子良二さん

9月から10月にかけて3つのイベントでツバルの写真展示を行い、温暖化防止を訴えました。イベントでの活動経験が豊富な皆さんは、写真を見ながら「温暖化の影響は他にもありますよ」「家でどんな省エネをしていますか？」と、来場者とおしゃべりするように温暖化についてわかりやすくお話しします。今後実践したい省エネ行動のアンケートを行ったところ「省エネしていたつもりだけどCO₂の排出量が多いところをしていなかったなあ」という方もいたそうです。最後に皆さんの活動が一般の方々の意識を変えるきっかけになったことを象徴する来場者のお一人の一言をご紹介します。

「ツバルって私には関係ない話だと思ってた。だけど本当はつながってるのよね。海も、生活も。」



海老沢法導さん



菅野剛夫さん



菅野喜美恵さん



庄子良二さん

みやぎ節電プロジェクト2011 ～夏の節電結果～

経済産業省が10月14日に発表した「今夏の電力需給対策のフォローアップについて」によると、アンケートで「無理ある節電だった」と回答した家庭は5.8%であり、今夏の節電は大変だったとマイナスに感じている方は、とても少ないようです。

「みやぎ節電プロジェクト2011」では家庭は緑のカーテン、企業は断熱シートを活用し、夏の節電に取り組みました。節電の結果は・・・「家庭1892kWh=616.8kg-CO₂(※1)」「企業5462kWh=1780.6kg-CO₂(※2)」の削減となりました！一般家庭1世帯あたりの1年間の消費電力量は「平均5,161kWh(北海道、東北、北陸、甲信越地域)(※3)」なので、家庭と企業をあわせるとそれ以上の電気量を節電したことになります。冬も家庭と企業で断熱シートを活用した節電に取り組んでいるので、冬の結果もご期待下さい！

※1 16世帯が6～8月取り組んだ。内訳は(アンケートから集計した電力使用の削減量)+(アンケートから集計した電力使用の削減量の平均)×12世帯。

※2 8企業が7～9月または8～9月取り組んだ。

※3 出典：「平成20年度 待機時消費電力調査報告書」省エネルギーセンター



みやぎ節電プロジェクトで実施した勉強会の様子



みやぎ節電コンソーシアム会議の様子

震災時における学校給食アンケート実施

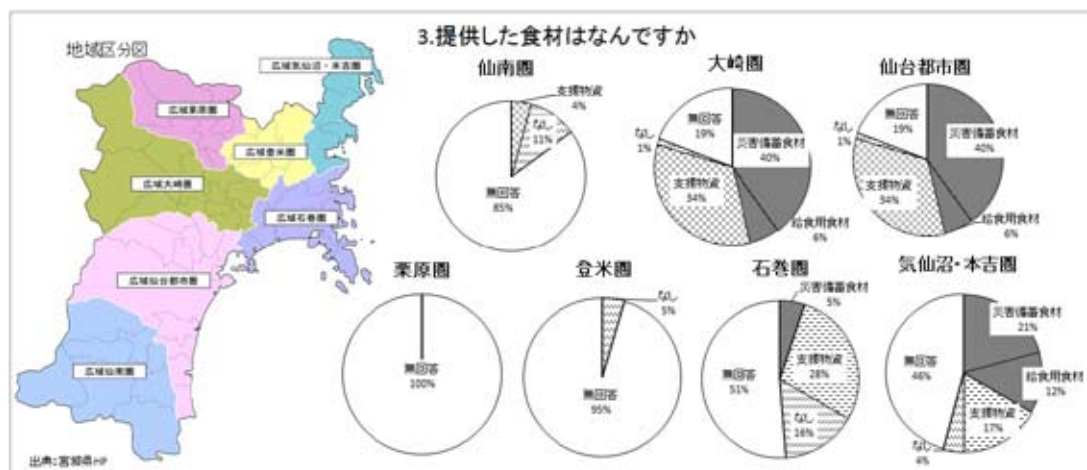
MELON 食部会では、食と環境、地産地消をテーマに活動を行っています。

そんな中東日本大震災があり、災害時における学校の役割、特に食について調査を行い、今後の防災に役立てるべく県内のすべての小中学校に給食についてのアンケート調査の協力を依頼しました。予想を遥かに上回る半数を超える357校の学校から回答がありました。震災で甚大な被害を受けた沿岸部からも、多数の学校にご協力いただきました。

今回の災害では、学校が避難所として多くの被災者を受け入れることになりましたが、多くの学校が備蓄してあった食料や支援物資、調味料等を避難者に提供しました。また近隣の農家や住民からも食料を中心とした差し

入れや炊き出しが行われ、また学校内の給食食材や生徒が育てていた野菜を活用するなど学校が地域の中で緊急時に大きな役割を果たしたことが証明されました。自校形式で給食を提供していた学校が校舎に被害を受けやむを得ず給食センターに移行したり、給食センターが津波によって被害を受け、簡易給食や弁当を持参させた学校も多数あったようです。

現在アンケートを集計中ですが、今回のアンケートでいただいたご意見は、食部会で今後、防災時に役立てられるように政策提言につなげていく予定です。そしてこれから子どもたちや学校、地域の方々にとって有効な食のあり方を考えていきたいと思っています。



回答より一部抜粋

- その他、提供を受けた食材
- ・学食用の食材を提供
 - ・学校の畑より野菜使用
 - ・地域の農家の方々から、お米や野菜を頂きました。
 - ・地域のかまぼこ屋から提供を受けたかまぼこ

エコなクッキング基礎講座 出前授業実施中

実施日：10月9日 小松島小学校社会学級
12月5日 金剛沢小学校社会学級
メニュー：クリスマス料理

～みそだれと乾物でちょっと和風な隠し味～

みそだれ／ゆで卵とブロッコリーの味噌グラタン／
切り干し大根のツナみそ風味／スティックサラダ／
トリプルパワーライス（ピラフ）／カレースープ／
ペラヴェッカ（ドライフルーツケーキ）

毎日の調理の中で出るごみや排水。調理の中で出る野菜の皮や根の野菜くずなどの生ごみは、生活から出るごみの中で最も多く、約1/3を占めています（仙台市H21年度）。また、水の汚れの原因も、現在では産業排水よりも生活排水の方が多く、約7割を占めています（BOD換算）。その生活排水の中でも最も多いのが台所からの排水で約4割。台所から出るごみを減らすこと、水を汚さないようにすることはとても効果的なのです。

そこで、今年4R推進部会ではクッキングチームを立ち上げ出前講座に取り組んでいます。メイン講師には料理愛好家の林絹枝さんにご協力いただき、部会メンバー

がアシスタントを務め講座を行ないました。

食材の大根やにんじんの皮も料理の中に使います。中でもブロッコリー茎の固い部分も小さく切ってスープに使い、すべてを使いきったことが驚きだったようです。メニューに関連するエコだけではなく、生活スタイルのエコも紹介しました。例えば、台所の整理整頓。定位置を決めて、さっと使えるようにすることが時間の節約にもなり、エコになります。冷蔵庫では、空き箱に調味料など定位置を決め置いておけば、さっと取り出せて冷気を逃がさず、冷蔵庫も汚れないため掃除も簡単です。その他にも洗う前に古布で拭くなどたくさんのエコを伝授しました。

ぜひみなさんも台所のエコに取り組んでみませんか？



金剛沢小学校での講座の様子

96 号の投稿テーマ

2012年のエコの抱負を5・7・5で言うと…

「自家野菜 余すところなく 使い切る！」
丹精込めて作る野菜を葉っぱや皮まで全部使い切れるように料理を工夫してみようと思います。(とん)

「こたつ出し 家族で囲らん
これもエコ」
(よつば)

「紙類は ゴミに捨てずに
リサイクル」
(タカタミ)

「長年は エネルギーの
ムダを断つ！」
(中日)

みなさん身近なエコの抱負を投稿してくれました。1年のエコはまず毎日の家庭から、ですね。

紙類も新聞・雑誌・雑紙等と分別が細かいためネックになっています。サッと分別しやすいよう工夫できると良いですね。

投稿募集

97号テーマ

「あなたは何派?! 電気 or ガス or その他」

今使っているものではなくても、自分の好みでOKです。その理由も含めて投稿ください。

特典

特典投稿が採用された方には、「500円分のMELON協力COOP商品券」をプレゼント♪(みやぎ生協の各店舗および宮城県内の日専連加盟店で使えます。)



投稿方法

■投稿文とペンネームを明記し、メール・FAX・ハガキ等にてMELONへお寄せください。

ケータイからの投稿はQRコードからご覧いただくと簡単です。



■締め切り：2月10日(金)

編集後記

- 窓に断熱シートをつけてみました！電気代がどれくらい節約できるか楽しみです。(菅田)
- 美里町にある江合川漁協の鮭の築場に伺った。次々に遡上してくる鮭を築で捕獲しメス鮭のおなかを割いて魚卵を採取し、オスの白子をまぶして受精させ養魚場で孵化、育成すること。自然のままにおいても一所懸命に川を遡って卵を産んだら死ぬ運命とのこと。輪廻の二文字が浮かんできた。(篠原)
- 一気に寒くなりました。今年の夏に扇風機代わりに購入したサーキュレーター、冬も大活躍してくれそうです。(岸)
- 赤外線温度計を購入した。一瞬で温度測定できるのでおもしろい。生ごみ堆肥の温度を測るのに使用している。(小山田)

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

1/16(月)	みやぎ里山応援団 例会
1/17(火)	第12回 MELON 環境市民講座 「食と環境 物語がはじまる旅～地産地消のお酒『一ノ蔵』と『冬みずたんぼ』の見学～」 MELONcafe 企画部 例会 4R 推進部会 例会
1/18(水)	「ランチに映画を楽しもう♪ ～上映会『セヴァンの地球のなおいし方』～」 食部会 例会 企業交流部会 例会
1/19(木)	MELON 情報センター 例会
1/21(土)	第13回 MELON 環境市民講座 「公開セミナー『自然と地域の中で生きる 新しい農業のかたち～自然農～』」
1/28(土)	「聞く・話す・知る わたしと世界とオン ダンカ～カタヌキのじかん&基礎から学ぶ 国際会議～」
2/4(土)	MELONcafe プチ講座 「着物をリメイク★貝のおひなさま作り」
2/5(日)	「環境フォーラムせんだい2011 ～“環境”震災で見てきたこと～」
2/18(土)	第3回生ごみ堆肥化&ベランダ園芸講座 「冬はハーブで素肌ケア(仮)」
2/22(水)	第14回 MELON 環境市民講座 「3.11 震災から学ぼう！ ～これからの自然エネルギー～」

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

会員状況

986名

- 法人 97
- 任意団体 17
- 個人 872

2011年11月30日現在



ボランティアポイントカードをご活用ください

部会・プロジェクトの例会、イベントにボランティア参加する際にボランティアポイントカードをお持ちください。1回の参加で1スタンプを捺印します。5つ貯まるとMELON協力商品券(1,000円分)と交換できます。カードを紛失した方は事務局までご連絡いただければ再発行いたします。

MELON 協力商品券を利用しましょう。

「MELON 協力商品券」を積極的にご利用ください。利用額の一部がMELONに寄附され、皆さんの日頃のお買い物行動から環境を守る活動に役立つ仕組みが作られています。

発行元 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5710

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jpn.org URL http://www.melon.or.jp/melon/



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。